

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

○本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要と思われる点」などについて記入してください。

事業所名 夢門塾ゆうゆう日記

公表日 2026年 1月

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	2フロアで状況に応じて使い分けをしている。	学習と遊びの空間が共用のため、仕切り等の工夫が必要である。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	基準より多く人員を配置できていることもある。	2フロアに分かれていることや送迎のタイミングで少なく感じることもあり、今後は対応の工夫を図っていきたい。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	手すりの設置や視覚支援も用いた支援ができています。	道具等が見える位置にあり、刺激（情報量）が多いため、収納に工夫が必要である。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	毎日清掃・消毒を行っている。	行き届いていない箇所も見受けられるため、定期的に細かい掃除が必要である。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	1人になれる空間を提供できる部屋があり、状況に応じて使用している。	静養室やカームダウン室は設けていないため、現在は別の部屋で代用している状況である。今後は、より適切に利用できる環境の工夫を検討していきたい。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	朝礼等で前日・当日の確認と振り返りをしている。	パート職員にもPDCAサイクルを確認できる時間を設け、理解を深めていきたい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	保護者様評価をもとに会議を行い、業務改善にあたっている。	業務改善後の振り返りが十分ではないため、新たな課題にも引き続き対応していく必要がある。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	会議や面談、業務中にも意見を伝えられる機会があり、改善に努めている。	業務改善にすべての職員で対応できるように努める必要がある。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		第三者による意見をいただく機会はあるが、評価という形式には至っていない。第三者の訪問等でアドバイスをいただいた際は業務改善に努めている。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	毎月、全職員を対象とした研修を実施しており、受講している。	事業所内やエリア単位での研修を実施できるように努める。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	ホームページにて公開している。	ご利用者へ周知できるように努める。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	利用者主体とした個別支援計画を作成している。	似たような計画書にならないように、適切にアセスメントを実施していく。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	計画書作成の際には、職員全員からの意見を聞き検討している。	日頃からご利用者のニーズを全職員でヒアリングし、汲み取れるよう努める。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	計画書完成後には、必ず職員に共有したうえで支援を行っている。	目標や支援内容だけでなく、細部まで読み込み、より適切な支援を提供できるよう努める。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	日々の様子を記録しアセスメント等をもとに、お子さまの状況を適切に判断できるように努めている。	アセスメントの更新頻度が不定期のため、常に適切な情報を更新できるよう改善していく。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	「本人支援」「家族支援」「移行支援」を踏まえ、ご利用者様の意向や特性に合わせた計画作成を行い、実施している。	「地域支援・地域連携」の実施に改善の余地があるため、ガイドラインに沿った運営に努める。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	会議等で意見を出し合い作成している。	作成者や担当が固定化しないように、様々な意見を取り入れられるよう努める。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	直近の活動と被らないようにアイデアを出し合っている。	新しい活動をより増やせるように、様々な資源を活かしながらプログラム作成に努める。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	1日のスケジュールに個別と集団の時間と分けて組み込んでおり、子どもの状況に応じて提供している。	個々のレベルをしっかりと判断し、より目的を明確にした集団活動を提供していく。個別活動については、年齢や発達段階に応じたプログラムを考案し、提供できるよう努める。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	朝礼を行い、当日の業務確認を行っている。	職員の入れ替わりがあった際にも、円滑に連携がとれる体制を整えていく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	送迎後に振り返る時間があり、参加できなかった職員には朝礼やノートで共有している。	メモでの伝達もあるため、なるべく口頭で伝えられるように努める。
22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	記録を滞りなく記入し、日々の支援の改善に努めている。	同じ職員が同じ児童ばかりの記録にならないよう分担していく。	
23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	早めにスケジュールを決め、定期的なモニタリングを行っている。	定期的にできているが、必要に応じてその都度モニタリングができるように心がける	
24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0	ガイドラインに沿って様々なプログラムを提供している。	地域交流の観点をより濃い内容での提供に努める。	
25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	おやつ購入の際に、事業所独自のゆうゆうドルを用いて、本人の意思決定を支援している。	全体のルールを大切にしている瞬間もあるが、本人の意思と全体とのバランスも考える必要がある。	
26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	日頃から支援で関わっている職員が参加している。	特定の職員だけでなく幅広い職員にも参加できるように調整していく。	

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	協力医療機関等連携体制は整えている。	頻度として多くはないため、細かく連携を今後も図っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	学校や保護者様から下校時間の確認を随時している。	学校によって下校の知らせ時期が異なるため、細かな連絡調整が必要である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0	小学校、児童発達支援事業所との就学前の会議を行っている。	すべてのご利用者様にできるように、今後も努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0	就労継続支援B型の事業所と会議を行い、情報共有している。	卒業後も連携を取れるような体制づくりは、今後も取り組んでいく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	児童発達支援センターとの連携として検査結果の支援アプローチを参考に支援をしている。	スーパーバイズや助言、研修を受ける機会は設けられていないため、今後確認していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	公園、外出先等で地域の他のこどもと活動することもある。	放課後児童クラブや児童館との交流できていないため、そのような機会を設けられるよう努めていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	0	発達支援部会傘下の連絡協議会へ参加している。	その他の部会に参加できないため、機会があれば参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	送迎時等でやり取りをし、必要に応じてケース会議も開き共有している。	今後は保護者様からのヒアリングの機会を増やし課題解決に向き合っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	保護者様へご家庭でできる支援等をお伝えすることもある。	研修やペアレントトレーニングほどでの家庭支援はできていないため、実施できるように努める。
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時にご説明しており、質問があった際にはお答えしている。
37		放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	個別支援計画作成にあたり、本人、保護者の意向を聞いたうえで（モニタリング）計画作成にあたっている。	本人の意向を引き続き踏まえられるように、日ごろから関係構築に努める。
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	お渡しする際には必ずご説明し、署名をいただいている。	定期的に個別支援計画の内容に触れた説明を行い、理解を深めていただけるように努める。
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	全職員が窓口となり、管理者・児童発達支援管理責任者の責任のもと相談対応を行っている。	保護者様から相談を待つのではなく、職員からも聞き出せるような関係性構築に努める。
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	参観日を開催し、きょうだいも参加可能としたプログラムを提供している。	年に1回にとどまっているため、頻度を増やし定期的に開催できるように努める。
41		こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	ご意見をいただいた際にはすぐに管理者が対応し、再発防止に努めている。	ご意見が出た際は迅速に対応し、苦情起きぬように日頃の支援や体制の改善に努める。
42		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	おたより、ブログ、連絡帳にて活動の様子や情報をお伝えしている。	配布抜けや伝え漏れがないように、確認を怠らず伝えていく。
43		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	必ず保護者の同意を得るようにしている。	掲示物やおたより等により流出することがないように、全職員で取り扱いに注意し、厳重に管理するように努める。
44		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	視覚支援を用いたり、一方通行になつたりしないように、言葉がけを心がけている。	随時、気軽に手軽に双方の意思疎通ができるように関係構築を高めていく。
45		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5	地域行事に参加している。	地域行事に参加はできているが、招待する等の事業所運営にまで至っていないため、積極的に地域連携を図る。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	マニュアル策定し、閲覧できるようにしているときに、訓練も行っている。	契約時に降に確認できていないため、定期的な利用者への周知へ努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	BCPの策定はしており、定期的な避難訓練を2回を行っている。	職員の入れ替わりがあった際は、速やかに避難訓練等の非常時対応を共有していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	契約時に必ず確認をしている。	定期的な見直しをしていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	アレルギーのある利用者には指示書を提出したとき、除去食の確認をしている。	定期的な見直しを確認するとともに、医師との連携にも努める。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	計画作成、マニュアル整備、研修や訓練のもと支援を提供している。	安全確認を定期的な点検等をしなが運営していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	契約時に確認とご説明をしている。	定期的に説明する機会や随時質問や連絡がとれる体制を整えていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリハットを全職員の目録で共有し、再発防止に努めている。	特定の職員や児童とならないように幅広い視点で注意を向けられるように努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	研修や委員会を設け、虐待防止に努めている。	事業所内での研修等も行っていけるように努める。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	計画書に記載をし、身体拘束を行わないように努めている。	身体拘束が行うことがあった際には、保護者の同意や本人の尊重を留意し、再発防止に努めるよう全職員に周知していく。	
保護者様評価、自己評価についてまとめ						
保護者様評価、自己評価を踏まえ、不十分な箇所については改善を行い、周知徹底をしていく。 また、その他の点についても、引き続き良いサービスを提供するために、ミーティング等で情報共有を行い、安全な施設運営に努める。						